



当別あんどん粋のメンバー
前列が代表の前泰治さん



「当別あんどん粋」

夜高あんどんを 超えるイベントに

夏祭りを盛り上げるために

毎

週月曜日、水曜日の夜には当別町車両センターでコツコツと行灯を制作している人たちがいます。「当別あんどん粋」のメンバーが集まり、当別の夏祭りに向けて勇壮な行灯が形になっていきます。

仮装

盆踊りが昔、太美の振興会祭でありました。それに出ようという仲間が集まったのがこの会のきっかけです。その後も栗山町、北竜町など、賞金付きの地方の仮装大会を探しまして、サザエさん、ゲゲゲの鬼太郎などの格好で出た訳です。札幌の大通公園の大会では準優勝もしました。沢山のお祭を見てきた訳です。当然！「当別町のお祭を盛り上げるにはどうしたら良いか」と考えた末、行灯を作ろうと

いうことになりました。やったことも無い行灯を作り出したのは7年前で、それは見よう見まねです。そして青森市や五所川原市など、行灯で有名な町に電話で問い合わせたり、本で調べたりして、やっと今の形です。今春には青森ねぶた祭の行灯づくりを勉強しようと思っていたのですが、あの震災でね、諦めて帰ってきました。去年は「閻魔大王」はじめ3基の行灯を制作し、お盆の夜、神輿とともに夜の本町市街を練り歩きました。「行灯は光。神輿が引き立った」と喜んでくれました。「閻魔大王」は当別祭の後も札幌の東区の祭で披露し、「あんどん粋」の紹介してもらいましたし、2月には「あそ雪の広場」にも初登場して多くの町民に見てもらいました。

今回は昨年制作した「閻魔大王」のほか、昨年より1基多い4基が祭に出ま

す。新しい行灯は、火消しの纏^{まと}を担いだ歌舞伎役者のデザイン。ただし、纏の部分は時間的に厳しくて、他の形で工夫しています。設計図はなく、絵を起こして、頭の中で凹凸を計算しています。骨組みも板や針金ですが、簡単に修正できるものではありません。絵の具も光を通す染料系のものを使いますが、絵を描ける人でも行灯の絵は苦労しますね。難しいだけに完成の喜びは大きいです。名寄や秋田に転勤したメンバーも帰ってきて一緒に担いでくれます。

夢は

江差町の「姥神(うばがみ)大神宮渡御祭」や沼田町の「夜高あんどん祭」のように地域や職場で、みんなが制作するような行灯祭が当別に出来ることです。まずは夏祭での行灯を是非見てください。

(7月11日取材 話し手：当別あんどん粋代表 前泰治さん)